

令和 2 年度

樹木調査報告書

令和 3年 4月

広島県緑化センター

1 計画

1) 全体計画

年度	H29	H30	R1	R2	R3	計
計画(本)						
実績(本)						
達成率(%)	80%	29%	81%	106%	21%	67%

2) 今年度計画の内訳

調査地区	広場建物回り	主園路	東山作業路	遊歩道	西山作業路	藤ヶ丸	計
計画(本)							
実績(本)							
達成率(%)	99%	103%	121%	272%	146%	29%	145%

2 調査結果

令和 3年 1月～ 3月に実施した調査結果を以下に示す。

R3年度予定分を
繰り上げ実施

1) 調査場所と本数

場所	調査本数	内訳 樹種別本数							
		スギ	マツ	サクラ	モミジ	ケヤキ	クスノキ	広葉樹	針葉樹
遊歩道 北側									
東山作業路									
西山作業路									
藤ヶ丸									
合計		1,102	80	2,712	268	177	1	6,848	102

2) 判定結果

① 遊歩道 北側 (調査地区名)

今回調査本数

判定区分	枝		主幹		うち緊急性◎			
					枝		主幹	
判定1		1%		3%	0		2	
判定2		5%		19%				
判定3		94%		78%				
判定4		0%		0%				
合計					0		2	

② 東山作業路 (調査区域名)

判定区分	枝		主幹		うち緊急性◎			
					枝		主幹	
判定1		0.04%		3%	0		2	
判定2		1%		10%				
判定3		99%		87%				
判定4		0%		0%				
合計					0		2	

③ 西山作業路 (調査区域名)

判定区分	枝		主幹		うち緊急性◎			
					枝		主幹	
判定1		0.1%		2%	0		0	
判定2		2%		10%				
判定3		98%		88%				
判定4		0%		0%				
合計					0		0	

④ 藤ヶ丸 (調査区域名)

判定区分	枝		主幹		うち緊急性◎			
					枝		主幹	
判定1		0.3%		4%	0		0	
判定2		9%		16%				
判定3		91%		80%				
判定4		0%		0%				
合計					0		0	

判定区分	枝		主幹		うち緊急性◎			
					枝		主幹	
判定1		0.5%		3%	0		4	
判定2		4%		15%				
判定3		96%		82%				
判定4		0%		0%				
合計					0		4	

(特記事項)

- ・今年度実施予定エリアが早期に終了したため、令和3年度の予定エリアを繰り上げ実施した。

今までの図面上に、今回調査範囲を⁽¹⁾で示す。

令和2年度 第4四半期

青色(R3年度分線上げ実施) ■■■■

赤色(第4四半期実施済) ■■■■

緑色(1-3四半期実施済) ■■■■

西 北
南 東
0 100 200m

4 要対応木と処置状況

令和3年度 4/4 半期において、調査の結果対応が必要とされた樹木の本数と3月 31日時点での処置状況を示す。

1) 要剪定樹木と処置結果

調査区域	調査本数	要剪定本数	処置本数	処置率
遊歩道 北側		54	0	0%
東山作業路		1	0	0%
西山作業路		2	0	0%
藤ヶ丸		2	0	0%
合計		59	0	0%

2) 要伐採樹木と処置結果

調査区域	調査本数	要伐採本数	処置本数	処置率
遊歩道 北側		227	167	74%
東山作業路		82	17	21%
西山作業路		44	2	5%
藤ヶ丸		30	6	20%
合計		383	192	50%

3) 計画伐採樹木と処置結果

今回調査範囲において、計画伐採(将来的に伐採が適当)と判断された樹木の本数と、3月現在の処置状況を

調査区域	調査本数	計画伐採本数	処置本数	処置率
遊歩道 北側		46	0	0%
東山作業路		4	0	0%
西山作業路		6	0	0%
藤ヶ丸		0	0	#DIV/0!
合計		56	0	0%

※計画伐採本数には、前回調査の未処置分を含む

5 考察

令和3年度繰り上げ実施分の西山作業路において、2つの現象がみられた。

1. シイの大径木の先枯れ

- ・法面上に立つシイの比較的大きなものに先枯れが多くみられた。
- ・下枝がなく、上方にしか葉がないため、葉の状況は観察できなかったが、健全なシイの木に比べて若干葉色が薄い印象を受けた。
- ・株元付近に、害虫の穿孔等は見られなかった。
- ・現状では、先枯れの要因は不明。今後の観察を要する。



2. マツの樹勢低下

- ・一部のエリアで、樹勢が低下したマツが多くみられた。
- ・枝が写真のとおり、うねるように変形しているもの多く見られた。
- ・マツモグリカイガラムシが寄生している可能性がある。
- ・防除方法として、4月、または9月にマシン油を噴霧する方法があるが、被害を受けたマツが実生木であり、費用対効果の面から防除を実施するか検討を要する。



6 今後の樹木管理について

考察で述べたとおり、以下の観察検討を行う。

- ・シイの大径木の先枯の経過観察
- ・マツモグリカイガラムシの防除の検討

添付資料

- ・調査範囲図
- ・業務写真集